

戦争の反省のない、核武装論者が進める憲法改悪——キッパリ反対する日本共産党の前進を！
定数三の埼玉選挙区から、暮らしと憲法の守り手、あやべ澄子さんを国会へ！

「近所のみなさん、日本共産党です。」

この場をお借りして、防衛大臣の辞任など、最近の政治情勢と、参議院選挙で何が問われるのかを、お話して、ごいっしょに考えたいと思います。しばらくのご協力を、よろしくお願いいたします。

みなさん。

久間(きゆうま)防衛大臣が、辞任に追い込まれました。

アメリカによる、広島・長崎への原子爆弾投下を、「しようがない」と言って、容認したからです。今でも被爆の後遺症に苦しむ方々が、たくさんいる事実も、核兵器廃絶を願う、国の内外の世論も、まったく無視した暴言でした。辞任は当然です。安倍総理が、こういう人を防衛大臣に選んだばかりか、かばいだてまでしてきた責任もまた、厳しく、問われるのではないでしょうか。

久間氏にかわって、小池百合子氏が、防衛大臣に就任しました。小池百合子氏といえば、日本の侵略戦争を、「自存自衛の戦争」、「アジア解放の戦争」だといって美化する、日本会議国会議員懇談会の、副幹事長をつとめてきた方です。その上、新聞アンケートに答えるなかで、日本の核武装について、「国際情勢によっては検討すべきだ」と答えた方です。戦争の反省のない、核武装論者——こういう人を防衛大臣に選ぶなど、もつてのほかではないでしょうか。「初の女性防衛相」を売り物にしても、危険な本質を、隠すことはできません。

「近所のみなさん。」

アメリカ政府の高官が、原爆投下に関して、「日本人数百万人の犠牲を、さらに出すところだった戦争を、終結させたという点で、大半の歴史家の見解が一致するだろう」と、語ったのは重大です。原爆投下によって、終戦の時期が早まり、数百万人の命が救われたなどというのは、人道上も、歴史の真実からも、許されない暴論です。

アメリカ占領軍の最高責任者だったマッカーサー元帥(げんすい)は、もし原爆投下について、自分が相談を受けていたら、日本はすでに降伏の準備をしていたから、投下は必要ないと言っただろう、という趣旨の発言をしていました。

みなさん。

戦争に反省のない人たちが、閣僚の大半を占めるのが、自民・公明の、安倍内閣です。

この安倍内閣のもとで、憲法改定が、推進されています。「アメリカといっしょに、肩をならべて、武力行使ができる国」になるために、憲法九条を変えようとしています。

そのために、自民党は、参議院選挙政策の第一に、憲法改定を掲げました。

民主党は、参議院選挙では、憲法について語らないそうです。それは、九条を変えて、日本を、海外で武力行使できる国にする点で、自民党と同じだからです。

みなさん。

世論調査では、たとえば「読売新聞」の調査でも、五十五・八パーセントが、「九条改定」に反対しています。憲法九条改定は、国民の願いではありません。

日本共産党は、九条をもつ憲法の改悪に、キッパリ反対します。米ソ対立もなくなった今日、軍事の力ではなく、外交の力こそ、国際政治の主役です。二度と戦争はしないと誓った、憲法九条を生かしてこそ、日本は、外交の力を発揮できるのではないでしょうか。

憲法九条改悪に反対するみなさんのご支持は、こぞって日本共産党にお寄せ下さい。比例代表選挙では、日本共産党、埼玉選挙区では、あやべ澄子さんを、よろしく願います。

みなさん。

自民・公明の政権によって進められてきた、住民税増税や、「消えた年金」、「貧困と格差」など、暮らしの問題をどうするのが、大きく問われるのが参議院選挙です。

バブルの時期を上回る、大もうけをあげている大企業に、応分の負担を求め、社会的な責任を果たさせようではありませんか。

大企業から、政治献金をもらわない、たしかな野党・日本共産党がのびてこそ、政治に前向きの変化をつくることができます。

日本共産党は、「消えた年金」問題では、すべての、年金加入者と受給者に、保険料の納付書を直ちに送ることを、提案しました。政府の責任で、一人残らず、できるだけ早く、問題を解決するためです。この提案は、政府も認めざるをえませんでした。

建設的な提案で、政治を動かす、日本共産党を、よろしく願います。